# 南山大学 人文学部 言語学講演会

2019 年 7 月 26 日（金）15:30~

於 南山大学 Q 棟 415 教室

---

15:30~16:30

## 階層的動詞句仮説からみた日韓語の多重接辞と文法化について

青柳宏（南山大学人文学部教授・人文学部長）

**要旨**：日本語においては，釘貫(1995)の語幹増加は動詞語幹のみならず，ス→サス→サセのように接辞においても観察され，かつ，使役・受動のサセ・ラレのような多重接辞が許容される。一方，韓国語では，多重接辞は，現代ソウル標準語においては生産性が非常に低いが，慶尚道方言や済州島方言ではかなり生産性が維持されている。本発表では，階層的動詞句仮説の観点から，両言語の多重接辞の生産性の違いを文法化の方向性の違いとして捉える可能性を示唆する。

16:45~18:15

## 言語類型論的観点から見た琉球諸語における有標主格性

下地理則（九州大学人文科学研究院准教授・国立国語研究所客員准教授）

**要旨**：現在，言語類型論で有標主格（marked nominative）という格体系が話題になっている。有標主格とは，AS を格標示し，P を無標にするような体系であって，対格言語の中で極めて稀であり，理論的に「想定外」であるとされている。ところが，琉球諸語では有標主格がかなり広範に見られ，むしろ多数派であると言っても良い。本発表では，最新の研究成果をもとに琉球諸語の有標主格の共時的実態を示し，このパターンが「想定外」ではなく，十分に動機付けられたものであることを示す。

---

参加は無料，事前予約も必要ありません。なお，講演会終了後，懇親会を行います。懇親会への出席を希望される方は 7 月 16 日（火）正午までに下記連絡先までご連絡ください。その他，本講演会についてのお問い合わせも下記までお願いいたします。

平子達也（南山大学人文学部日本文化学科　e-mail: hirako@nanzan-u.ac.jp）